

## 「今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回）」記録要旨【釜石・遠野ブロック】

平成27年8月10日(月)

岩手県立釜石商工高校 大会議室

### 【佐藤 釜石市教育委員会教育長】

- ・ 県立高校では、少人数指導のための教員の加配は1校あたり何人位になっているのか。
- ・ 小中学校では、地域の方を講師に招く等、地域の人材を生かした取組をしているが、高校ではそういう取り組みはあるのか。
- ・ 小中学校では、各学校でmanifestoを作り学校の魅力づくり、生徒が通いたくなるような学校づくりに取り組んでいるが、高校ではmanifesto的なものは作成しているのか。

### 【県教委】

- ・ 県立学校では学校経営計画を毎年作成し、それに基づく学校経営を行っている。PTA総会や地域の様々な会議で学校経営計画を周知し、地域からも理解を得ながら学校経営を行うよう工夫している。

### 【県教委】

- ・ 教員の加配については、高校の場合は少人数指導ということに限定したものではなく、各高校の教育課程に基づき、指導のために必要な教科等を中心に加配を行っている。
- ・ 学校の魅力づくりに向けた地域との連携としては、未来創造人サポート事業を活用し地域社会に貢献する人材の育成に向け、介護現場における実習や講義、地域学習のための講演会、地域産業や地域の文化を体験する講座等に、地域の方を講師として派遣していただき学んでいる例がある。

### 【藤澤 遠野市教育委員会教育長】

- ・ 中山間地域と県北沿岸地域に教員を多く配置しているということだが、費用については県の負担になるのか、それとも国の負担になるのか。

### 【県教委】

- ・ 国からは1学級定員40人を基本に財政措置がされており、その中で県が工夫して県北沿岸地域等に加配している。県全体の教員定数の中で、県北沿岸地域に配置する等の工夫をしているものである。

### 【菊池 花巻農業協同組合理事】

- ・ 県教委では望ましい学校規模を4～6学級としている。確かに、今後の中学校卒業者の見通し等から理解できるところはあるが、小規模校がある地域等の住民には異論があると思う。
- ・ 教育にはお金がかかる、人材の育成にはお金がかかることを前提に、これからの高校教育についての議論を進めてほしい。
- ・ 1学級40人として、全校で3学級120人を維持できれば、学校として存続することができると思う。岩手県は農業・畜産・林業が産業の基盤であり、また、県土が広く過疎地も多いことから、あまり学校規模だけを論じると、ますます地域が疲弊するようになる。
- ・ 小規模校の維持と人材の確保のためには、県立高校だから県だけの責任でというだけでなく、所在地の市町村にも責任や役割があるはずである。経営面で県が対応できない場合は、市町村にも経費の負担をお願いしながら、高校を存続させるべきではないか。

(次頁に続く)

- ・高校の存続には特色ある学校づくりをしなければならない。小規模校にリーダーシップをとれる教員を配置し、学校一丸となって部活動でも文化活動でも向上できる体制を県教委で考えてほしい。
- ・かつて、旧宮守村にあった遠野高校宮守分校では、村の支援により岩手県で初めて海外留学制度を取り入れ、花巻市内からも生徒が入学した。また、普通科からビジネス科に改め廃校の危機を免れた経緯があった。学校規模だけの議論ではなく、そういう魅力づくりを考えながら高校再編を進めてはどうかと考える。

#### 【県教委】

- ・資料1に示したように、小規模校では多様な進路希望への対応が難しい、部活動が縮小する、同世代の生徒との交流が不足しがちになる等の課題はあるが、学校規模の確保だけを優先するのではなく、教育の機会の保障と質の保証のバランスをどのように取っていくかということを考えていかなければならない。どのような教育環境にすることが、生徒にとって望ましいかということを考えていかなければならない。
- ・1～3学級規模の学校では、教員が足りない、同級生が少ない等の課題はある。その中で、課外授業や部活動を活発にする取り組み、地域を学ぶ機会を作る等、小規模校においても様々なメリットを伸ばせる取組ができないかということについて意見をいただきたい。
- ・県教委として、高校標準法に基づき教員の配置を工夫しながら、地域の皆さんと相談しより良い教育環境を作るための方法を考えていかなければならないということで意見をいただきたい。

#### 【佐々木 遠野市商工業関係者代表】

- ・地域との連携・協力の在り方について、県教委では、どのようなことを考えているのか。

#### 【県教委】

- ・資料3では県内市町村の県立高校に対する支援の事例を示している。通学や給食への支援、学力向上のための課外授業への補助、模試への補助、部活動での大会参加費支援や外部指導者の招へい等がある。
- ・各地域によって課題や求められる支援は異なると思うが、一概にこのような支援をやってほしいということではない。地域の子も達が入学したいと思う高校になるための支援とするためには、ということが考えられるかということについて、アイデアをいただきたい。

#### 【佐々木 遠野市商工業関係者代表】

- ・どのような方法で地域と一緒に学校の魅力を作っていくのか、具体的なことを議論していかないと先に進まないのではないか。
- ・大槌町、釜石市、遠野市は、それぞれ地域の特色がある。各市町で様々な活動をされている方をメンバーにした、魅力ある高校づくりに対するアイデアを募るような検討会を開いてはどうか。その中で出されたアイデアをある程度ブラッシュアップし、具体のものをまとめるということも必要ではないか。
- ・高校に入学する生徒が減るのは事実なので、例えば、県内あるいは県外にまでエリアを広げ、学校の魅力を伝えることも必要ではないか。
- ・第3回の地域検討会議の後に再編の具体案を示すという理解でいいのか。県教委が市町村との連携についてある程度の案を示さないと、抽象的な再編案となって地域に理解されないのではないか。

#### 【県教委】

- ・学校の魅力づくりについては、取り組んだからすぐに成果が出るかということではなく、長いスパ  
(次頁に続く)

ンで考えていかなければならない。地域検討会議で皆様から意見はいただくが、それだけではどういった取り組みができるか内容が深まりにくいところはある。

- ・ 県教委でも、各市町村や学校長と意見交換をさせていただき、実現の可能性を協議したうえで取り組みが可能かどうか検討しなければならない。
- ・ 魅力ある学校づくりの取組が決まらないと再編計画が出来ないというものではなく、それぞれ並行して行わなければならないことと考える。
- ・ 県外からの入学については、葛巻町から山村留学に取り組みたいという要望があり、町が生徒の受け入れ態勢について配慮するというを確認したうえで、今年度から県教委として一家転住を原則としていた規則を改め、県外からの受け入れを可能とした。ただし、成果が出るには時間がかかることであり、葛巻高校は1名が入学した。県外から生徒を受け入れることについて、県教委として否定しているわけではないので、要望があれば地域の皆さんと具体的な取り組みについて検討していきたい。

#### 【越田 大槌町商工会副会長】

- ・ 特長のある学科があればいいのではない。特長ある教員が配置されることで、自然に学校の魅力がつけられることもある。
- ・ 大槌町では、高校教育の前の小中学校の教育が大事ではないかということで、今年度から小中一貫教育校をスタートさせた。子どもたちがそばにいる高校生を見てどう思うか。その姿を見て大槌高校に入学したいと思うかどうか。特長ある学校とは、何も特長ある学科があるからということではない。生徒数が何人だから何クラスということで高校の在り方を考えてはいけない。

#### 【佐藤 釜石市教育委員会教育長】

- ・ 子ども達は、伸びよう、向上しよう、人のために尽くそうという願いを本来もって生きている。それが100%ではなくても、例え10%、20%でもいいので、伸びよう、向上しよう、人のために尽くす人間になろうと実感を持った時に、この学校は良い学校だと思えるようになる。
- ・ 地元の釜石高校、釜石商工高校、大槌高校の生徒の登下校時の後ろ姿がとてもいい。笑顔が見られる。いきいきとしている。高校で、伸びよう、向上しよう、人のために尽くそうという勉強をさせている証拠だと思う。
- ・ 地域がこうあればいいということが先にあるのではなく、魅力ある学校づくり、生徒が通いたくなる学校にするための学校として方針を示すことで、地域が協力していくということだと思う。

#### 【伊藤 大槌町教育委員会教育長】

- ・ 校舎制や統合のスタイルが示されているが、これによって地域格差が解消されるかということ、そうとは言えない。通学等の課題が出てくると考える。それより、今ある高校に、特色あるコースや学科を充実させていくということが大事ではないか。
- ・ 大槌町としては、高校の存続と自治体の存続を関連性をもって考えている。大槌高校は国公立大学や私立大学、専門学校への進学に力を入れながら、ボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。町としても高校と一緒にまちづくりを進めている。
- ・ 小規模校の課題解決の一つとして、例えば教員が兼務し巡回して授業を行うこともあるのではないかな。
- ・ 通学の問題が進路決定の大きな要因になっている。先週行われた大槌高校の体験入学には、町内はもちろんのこと、釜石市内、山田町からも中学生が参加していた。遠くから通学する生徒に対する

(次頁に続く)

支援として、県としてできる範囲、市町村にお願いすること等これから具体になるだろうが、これまでの検討会議の説明を聞く限りでは、本来県がやるべきことを市町村に肩代わりさせるという捉え方もできる。

- ・大槌町では高校生の通学への支援を検討している。また、今年度から小中学生全ての英語検定の受験料を町が負担し学習意欲を高める取り組みもしている。これから各市町村が取り組むことも情報交換しながら、より良い方法を考えていく必要がある。

#### 【県教委】

- ・小規模校においても課題をできるだけ少なくしていくために、習熟度別、あるいはコース別のクラス編制等の工夫もしながら授業を展開している。県教委としては魅力ある学校づくりへの支援ということで、進学支援ネットワーク事業による進学希望者への対応や就職希望者に対する未来創造人サポート事業でのキャリア教育の充実等に取り組んでいるところである。
- ・今後、生徒減少がさらに進む中で、学校中心の取組では根本的な課題解決は困難な状況にある。教員の人件費等は県が当然負担するものであるが、さらに教育の質を高め学校の魅力を向上させるために、課外への取組や生徒が少なくなることによる私費会計の負担増等、保護者の負担が大きくなること等についてお互いに協力できるものがないのかということについて、意見交換をしたいという趣旨である。市町村に肩代わりさせるという趣旨のものではないことを御理解いただきたい。
- ・通学支援については、統合する場合に教育の機会の保障の観点から、高校に通えないということがないように激変緩和措置を県として取っている。統合を伴わない通学支援は、義務教育ではないので県全体の取組は公平性の観点から難しいと考えている。沿岸地域の生徒に対する経済的支援については、いわての学び希望基金等で対応しており、そういう中でさらにどのような取り組みができるか意見をいただきたい。

#### 【菊池 遠野市副市長】

- ・魅力あるとか特色ある学校づくりについて、今ほど高校生が地域活動やボランティアに積極的にかかわっている時代はないと考えている。その中で、魅力ある学校とは何なのか。地域住民は地元の高校を評価していても、そこに入学する生徒が少なく定員を満たさなければ魅力がないと判断するのか。
- ・釜石工業高校と釜石商業高校が統合し、釜石商工高校となった。この学校が特色ある学校で地域に必要なものだということは誰が判断することなのか。
- ・岩手県には大企業が進出してきている。企業を誘致し関連する大学を誘致する、あるいは学部を設置して、県内の子ども達を入学させて地元に残すということであれば別だが、今は県外の大学に進学し地元に戻ってこない。本来、岩手県が人材を残す工夫をし、市町村が応援する形があればいい。
- ・遠野市も企業誘致をしているが、高校生が外に出てしまうと企業も撤退しなければならない。地元に残る魅力ある学校は誰が判断するのか伺いたい。

#### 【県教委】

- ・子どもが通いたい学校、保護者が通わせたい学校、地域が生かしていきたい学校ということが魅力ある学校と考えており、子ども達の教育環境を最優先に考えなければならない。
- ・地方創生の観点から、県教委としても高校教育に関わる部分として人材育成をいかに図るかということで、県の戦略ビジョンの案にも盛り込んでいる。

(次頁に続く)

- ・他地区の検討会議での意見として、仮に県外に出てもいずれ県内に戻って来るという地域愛を、小中高を通じて学ぶことは大事ではないかという意見もある。県外に出さないといっても、選択するのは子ども達であり、子ども達が地域を理解し地域産業を理解したうえで、進路を選択するような取り組みは、当然、地域と協力して進めていかなければならないと考えている。

**【菊池 遠野市副市長】**

- ・釜石商工高校は、高校再編の成功例であると県教委では考えているのか。

**【県教委】**

- ・資料6に専門学科同士の統合として、総合的な専門学科高校のメリットを示している。工業高校、商業高校と単科で設置されていた時に比べ、進路選択の幅が広がるということ等のメリットがあることから、成功事例と県教委として考えている。

**【野田 釜石市長】**

- ・沿岸地域は道路整備、JR山田線の復旧等、ここ数年で環境が大きく変わろうとしている。
- ・国は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」により、将来の人口減への対策に取り組んでいる。県や各市町村についても総合戦略を策定中であり、これから大きく環境が変わる中で保護者や生徒の進路に対する考え方も大きく変わるのではないかと。
- ・高校再編計画の策定を先手先手で取り組むことも大事だが、市町村と高校の存続は表裏一体であると言われるように、他のものとは違うという観点からもっと重みをもって考えていかなければならない。拙速に判断する状況にはないのだろうと思っており、もう少し様子を見ながら考えてはどうか。
- ・特にも、生徒数が減少し統廃合の不安をかかえる高校がある市町村の想いを受け止めていただきたい。
- ・教育委員会制度が変わり、行政と一丸となり責任をもって取り組んでいくということになった。小中学校については、各市町村がどういう子どもを育てるかということ議論し責任をもって取り組んでいる。高校生については、人格形成に県教委がどのような考えで取り組んでいくかということ明確に示す必要がある。
- ・各市町村は小学校から高校まで、一貫して地元で子どもを教育し地元で貢献する人材を育成したいと思っているが、高校については財政的な面も含め市町村ではできないので県にお願いしこれまで高校教育を担っていただけてきた。そこで、高校教育が県立でなければならない理由は何なのかということ明確に示してほしい。小規模校がある地域の要望に応えるということは大事なことであり力を入れていただきたいが、それ以上に大事なことがあるのではないかと。
- ・地域の特長を生かした小規模校の在り方について、まずは県の姿勢を明確に示したうえで具体的な話し合いがなされるべきではないかと。

**【県教委】**

- ・現在検討している高校再編計画は、概ね10年先を見据えたものとして前半5年間の具体の計画と、後半5年間の見通しを示すものとして考えている。中学校卒業生数が減少していくことから、前半5年間は学級減をしつつ現在の体制を維持できるかもしれない。しかし、後半5年間については、維持できるかどうか検討する必要がある、地域の想いも受け止めながら課題を共有し検討する必要がある。

(次頁に続く)

### 【県教委】

- ・高校教育については、県立でなければならないことはないと思う。北海道には町立あるいは村立の高校があり、また、市立や私立の高校もありそれぞれの地域の考え方があって設置されている。
- ・小中学校は全員が同じ教育内容を学ぶことになるが、高校は将来の自己実現を図るために教科・科目を選択し学習することから学習内容が多岐にわたり、学科についても、普通科から農業・工業・商業・水産等の専門学科と幅広く、それを全て市町村が賄うことができないということがある。
- ・高校再編では、地域性と広域性の両立をどう図るかという難しい課題がある。一つの高校で全ての教育内容を学ぶことは難しい。例えば、芸術学科を全ての高校に設置することはできないので、県全体で考えいずれかの高校に設置し人材育成を図るという考えにならざるを得ない。
- ・地域の課題と高校の課題を検討する中で、その地域にはどういう学科が必要なのか、あるいは人口減少を見据え、地方創生のためにはどのような学科を生かし伸ばすことが必要なのかということへの意見をいただきたい。

### 【佐々木 大槌町副町長】

- ・地方創生の総合戦略も策定途上にあり、また、人口も流動的で被災地の復興がどうなっていくかわからない特殊な状況の中で、高校再編計画を策定するというのは無理があるのではないかと。
- ・大槌町は地域の多くが被災し、これからの高校生がどうなっていくのか見えない状況にある。再編計画は前半5年間の具体案を策定するということであるが、もう少し復興の先が見えた時期に計画を策定してほしいと考える。
- ・人口問題について、大槌町では今年の3月に人口問題対策アクションプランを策定した。その中で高校の存続を人口減少対策のキーワードとし、特色ある高校をつくるための様々な施策を検討している。例えば、姉妹都市であるカリフォルニア州フォートブラック市に、高校生は3ヶ月、中学生は1ヶ月の留学を計画している。
- ・町の事業として、大槌川と小槌川の流域をトンネルで結び交通システムを確保する等、循環型のコンパクトなまちづくりを目指している。平成30年度にはJR山田線も復旧予定であり、それによって釜石市内の生徒も大槌高校に入学したいということになれば、通学に対する支援等も検討し、高校を存続させて人口問題の解決の一つにしていきたいと考えている。

### 【県教委】

- ・再編計画については、復興の進捗や被災して転出された方の動向、公共交通機関の復旧等も勘案したうえで検討していきたい。

### 【菊池 花巻農業協同組合理事】

- ・県内には私立高校が多数ある。釜石・遠野地区からも、私立高校に相当数入学している。学校に魅力があるから入学していると思うが、今後の県立高校について様々議論しても、私立高校に生徒が多数入学するようになればどうなるのか。私立高校の状況について、県教委では把握しているのか。

### 【県教委】

- ・再編計画は県立高校が対象であって、私立高校については直接的に関わるものではない。
- ・高校教育を担うものとして、お互いに魅力を発揮できるように私学協会とも十分意見交換を行っている。県立高校は、私学ほど学校の特色を出すことは難しいところがあるが、お互いに情報交換しながらより良い高校教育ができるように努めている。

(次頁に続く)

**【平澤 釜石・大槌地域産業育成センター専務理事】**

- ・今後5年間については、釜石・遠野地区の現在の高校の体制を維持できるかもしれないと言うが、生徒数の減少等から考えると、このまま維持はできないだろうということで理解する。
- ・現在の各校の学科を維持するだけでなく、新しい学科を設置する考えはないのか。
- ・ものづくりの人材育成として、黒沢尻工業高校には専攻科が設置されている。インターンシップや地域の技能者を招へいた講習会等により、専門的な技術を身につけ地元の中小企業で活躍していると聞く。専攻科を設置すれば、地域に貢献したいと考えている子ども達を地域に残す、仮に一旦他の地域に出たとしてもいずれ地域に戻り、自分の将来を託すような仕事に就くということもあるのではないかと。
- ・沿岸地域に専攻科を設置する考えはないのか聞きたい。

**【県教委】**

- ・黒沢尻工業高校の専攻科については、地域の事業主からの要望と県の産業振興の方向性が一致して設置されたものであり、高度な技術を身につけた生徒を送り出し、採用している企業から評価いただいている。
- ・文科省では、専攻科から大学に編入できるように制度を変更している。そのためには、一定の要件を満たすことが必要であり、そのための専攻科の教育課程の見直しは必要である。専攻科に進学する生徒にはそれぞれ目的があり、必ずしも大学に編入する必要もないことから、今後の動向を見極めて、教育課程の見直し等について検討する必要がある。
- ・専攻科については企業から評価していただいているが、一方で課題もある。震災後、高卒求人状況が好転し卒業後すぐに就職したほうが良いと考える生徒が多いことから、専攻科については現在、定員を充足していない状況にある。また、専攻科を卒業しても、本来、高卒と同じ待遇となるが、県内企業については、短大卒と同等の待遇で採用する等の配慮もある。しかし、県外企業あるいは大企業の場合は高卒としての待遇となり、企業の理解をさらに求める必要がある。
- ・専攻科の設置にあたっては、地元企業の理解がないとその設置は難しいと考える。また、地域との連携がより必要であり、人材育成についても企業と専攻科がそれぞれ担う部分を理解したうえで検討する必要がある。

**【野田 釜石市長】**

- ・専攻科の設置について、釜石市では以前から要望している。地元企業や商工会の意見をまとめて要望しているものであり、釜石市の現状も把握のうえ検討していただきたい。
- ・将来を展望し、今やるべきものは早めに取り組んでいかないと、更に人口が減ってしまう。専攻科の設置は、企業の活性化にもつながっていくと思うので善処をお願いしたい。

**【県教委】**

- ・専攻科の設置については、県教委だけでなく県の商工労働観光部や各地域のものづくりネットワークと連携しながら進めていく必要がある。

**【伊藤 大槌町教育委員会教育長】**

- ・大槌町はこの4月から小中一貫教育を本格的に実施している。今後、文科省の動きを見ながら、小中一貫教育校あるいはコミュニティースクールの導入、高校との連携等についても考慮しなければならないと考える。

(次頁に続く)

- ・大槌町としては、小中高の12年間の学びを支援していきたいという想いがあり、県教委の理解をいただきながら取り組んでいきたいと考えているが、中高の連携について、今後、どのような見通しを持っているのかお聞きしたい。

**【県教委】**

- ・中高一貫教育について、県内には併設型として一関第一高校に附属中学校を併設し、軽米高校と葛巻高校については連携型として導入している。
- ・連携の取組として、高校の教員が中学校に出向き英語や数学等の授業を行う、部活動を一緒に行うといったことが進められている。
- ・生徒数が減少し学級規模が小さくなると、中高一貫のメリットはあるものの、人間関係が限られ固定化されるため、他の高校に進学するといったことも見られる。どのような形が子ども達にとって望ましい教育環境なのかということを検証したうえで考えていく必要がある。
- ・連携型については、設置している町の意向を確認したうえでということになるが、県教委としては今後も継続していきたいと考えている。
- ・大槌町では、大槌高校のそばに小中一貫校の校舎を建設しており、中高の連携については、意見交換をしながら対応等を考えていかなければならない。